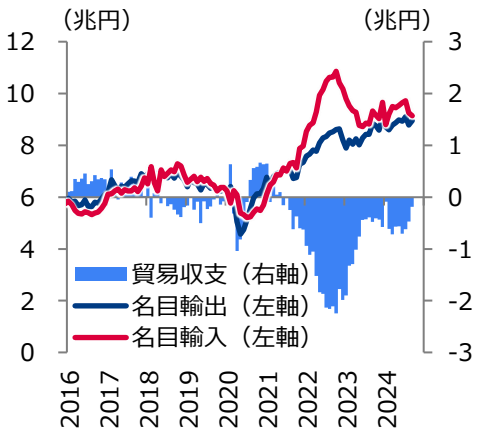
日本

貿易統計（2024年9月）

財輸出は底堅さを維持も、中国向け自動車輸出低迷が重石に

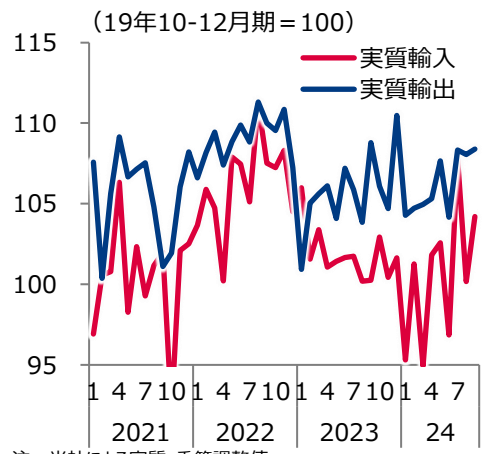
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



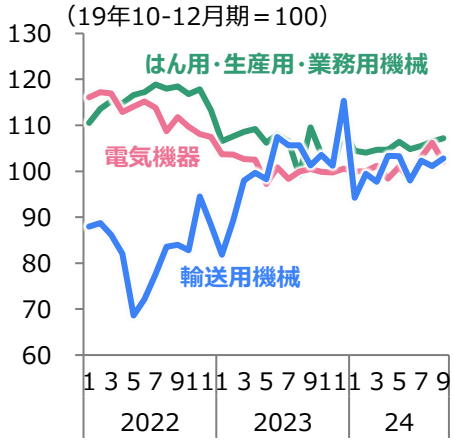
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出入



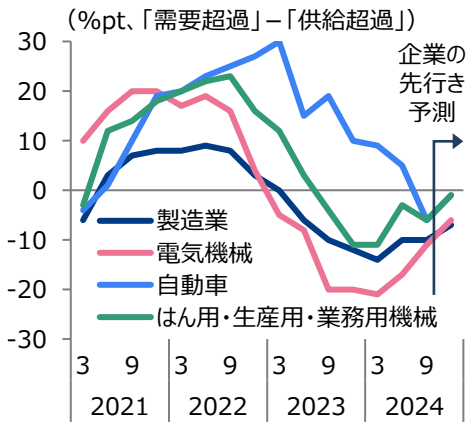
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出（財別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 海外での製商品需給判断



注：大企業。
出所：日本銀行「短観」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年9月の貿易収支（季調値）は、▲1,872億円と40カ月連続の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比+2.0%）が増加した一方、名目輸入（同▲1.2%）が減少したことで、貿易赤字幅は縮小した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）について、7-9月期は前期比+2.4%と2四半期連続で増加した（図表2）。実質輸入は、7-9月期同+3.6%と持ち直し傾向にある。
- 実質輸出について財別にみると、輸送用機械は中国向けの低迷が下押しとなっているものの、自動車生産が正常化に向かう中で、緩やかな持ち直しに転じている（図表3）。電気機器は、半導体市場の回復を受けて底打ちしており、韓国・台湾を筆頭にアジア向けが増加している。はん用・生産用・業務用機械も、米国の設備投資需要の強さなどが下支えする格好で、底堅く推移している。

基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、原油価格の下落傾向を受けて、縮小傾向にある。もっとも、原油価格は9月後半以降、産油国の減産縮小観測や中東情勢の緊迫化のなかで乱高下している。先行きの貿易赤字縮小ペースは緩やかにとどまるだろう。
- 先行きの実質輸出について、底堅く推移するとみるが、増加ペースは緩慢なものにとどまるだろう。その背景として、①海外景気の回復がプラスに作用する一方、②中国における日系メーカー自動車の需要低迷が重石となることが挙げられる。
- ①について、日銀短観によると大企業の認識する海外需要は回復傾向にあり、先行きも企業は改善を見込んでいる（図表4）。海外経済の底堅い成長が、需要の回復につながっていると考えられる。
- ②について、中国の自動車販売において地場メーカーの電気自動車のシェアが高まっており、日系メーカーの販売は減少傾向にある。日系メーカーの中国現地工場の閉鎖・縮小の報道も相次いでおり、中国向け自動車輸出は当面、力強さを欠く見込みである。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.